

# 訪問看護ステーションあかしに おける業務効率化

2015年1月31日  
公益社団法人 中央区医師会  
訪問看護ステーションあかし  
加藤 希

# 訪問看護ステーションあかしの 紹介

- \* 2000年4月 開設
- \* 看護師 常勤11名（内ケアマネジャー兼任3名）  
非常勤5名  
専任ケアマネジャー2名  
事務2名
- \* サービス提供体制強化加算、緊急時訪問看護加算
- \* 24時間対応体制加算、機能強化型訪問看護療養費1を取得
- \* 利用者数223名（1歳～103歳）
- \* 延べ訪問件数1200～1300件/月
- \* 介護保険：医療保険=7：3

# 開発当初のステーションの課題

- \* 利用者は増加、医療ニーズの高い利用者やがんの末期、在宅の看取りが増え、24時間の緊急コールや訪問が増えた
- \* 利用者のニーズに応えたい！ 手厚い看護を実践すればするほど、残業時間が増える

残業時間が増加、看護師は疲弊  
ワークライフバランスの崩壊



気力  
低下



体力  
限界

目標

# 業務効率化 働きやすい職場への改革 人材育成

- \* 2012年5月よりシステム構築を開始  
（株）ティービーケー・システムエンジニアリング社に  
「セキュリティ重視のクラウドシステム」の構築を依頼した  
看護業務、事務業務の洗い出し  
ヒアリング→業務フロー作成→ヒアリング→業務フロー再整理  
「課題を抽出して仕分け」「業務内容の一覧作成」「作業時間の  
分析」を経て  
①環境が不十分 ②記録物の重複作業 ③個人情報への漏洩リスク  
などの問題点を抽出した

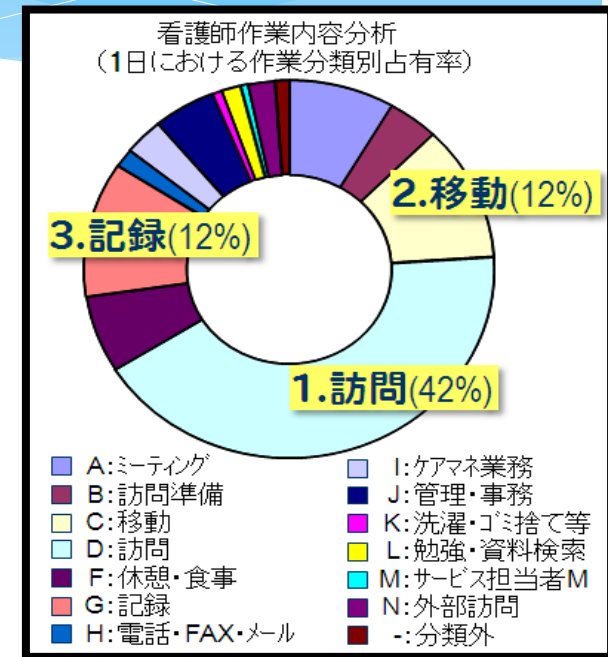
# ①環境の不十分さ

記録：保険請求ソフト「コスモス」を使い看護記録を作成

- 当時8台のパソコンを14人で使用
- ステーションへ戻り記録  
1件10～15分、5件/日

PCが足りないため、PC待機時間がある

伝達：個人携帯を使い、電話/メール



個人携帯使用全廃、iphone 15台契約、  
PC 15台に増台、夜間当番用PC導入

現状調査結果

## ②記録物などの重複作業

- \* 訪問時にバイタルサインなどメモ、帰宅後PCで記録する
- \* 薬の内容を、一覧表、看護記録などに記録

**情報管理を一元化**

## ③個人情報の漏洩のリスク

- \* 個人情報を紙ベースで持ち歩く（薬情報、看護ケア表）
- \* 紛失のリスク

**紙ベースでの情報を持ち歩くことを禁止**  
**個々のIDで情報 を管理**



# 欲しい情報を手元に

- \* 電話・メール・写真が撮れる
- \* 持ち運びし易い
- \* 経験値の違う看護師やどんな年齢層でも使えるもの

**看護師の視点を大切にした  
使い易いシステムを構築**

# Handeye看結の概要



- \* 朝所内で利用者情報をiphoneに取り込む(十数秒で情報の取り込みが可能、最大10名まで)





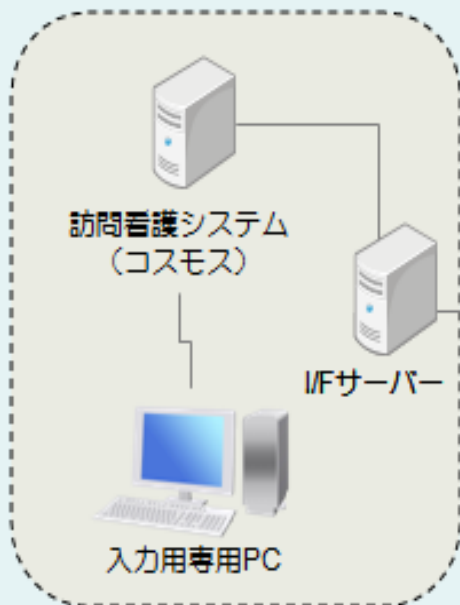
- \* 訪問先でバイタルサインや観察項目をタップで簡単入力
- \* 音声入力も可能



- \* 創部の画像を医師にメール
- \* ステーションでの画像保存のスムーズ
- \* 過去4回分の訪問看護のデータの確認が可能
- \* 最新の内服薬を確認できる
- \* 看護ケア表を確認する事でケアや約束事の見落としや勘違い、思い違いのリスクを低減

# セキュリティを重視した システムの概要

## ステーション内



## 訪問看護記録入力支援システム

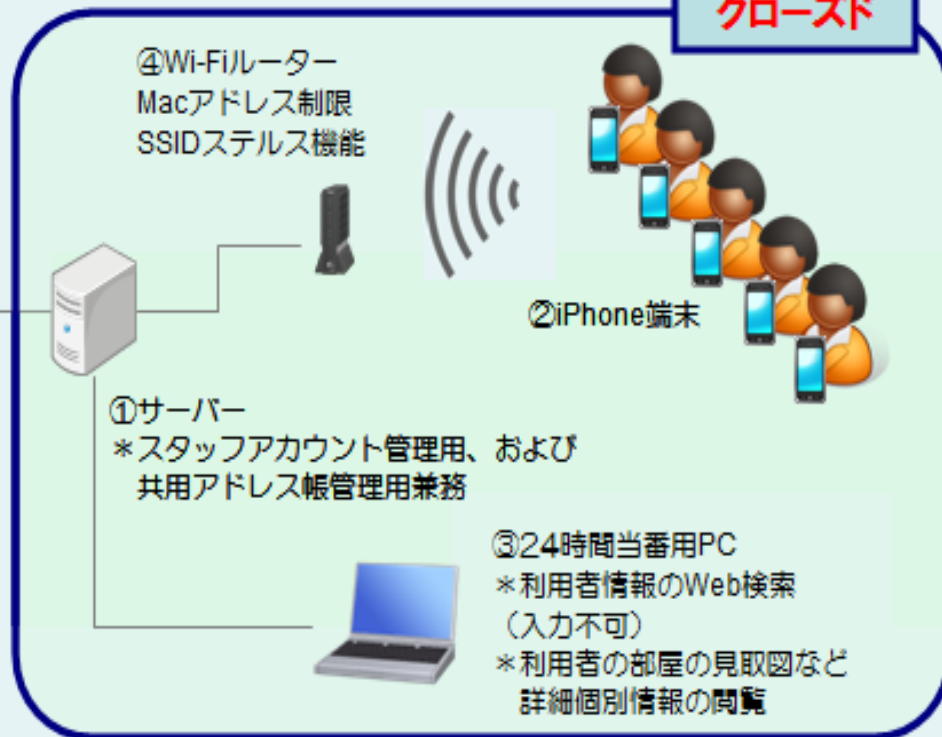
クローズド

④Wi-Fiルーター  
Macアドレス制限  
SSIDステルス機能

②iPhone端末

①サーバー  
\*スタッフアカウント管理用、および  
共用アドレス帳管理用兼務

③24時間当番用PC  
\*利用者情報のWeb検索  
(入力不可)  
\*利用者の部屋の見取図など  
詳細個別情報の閲覧

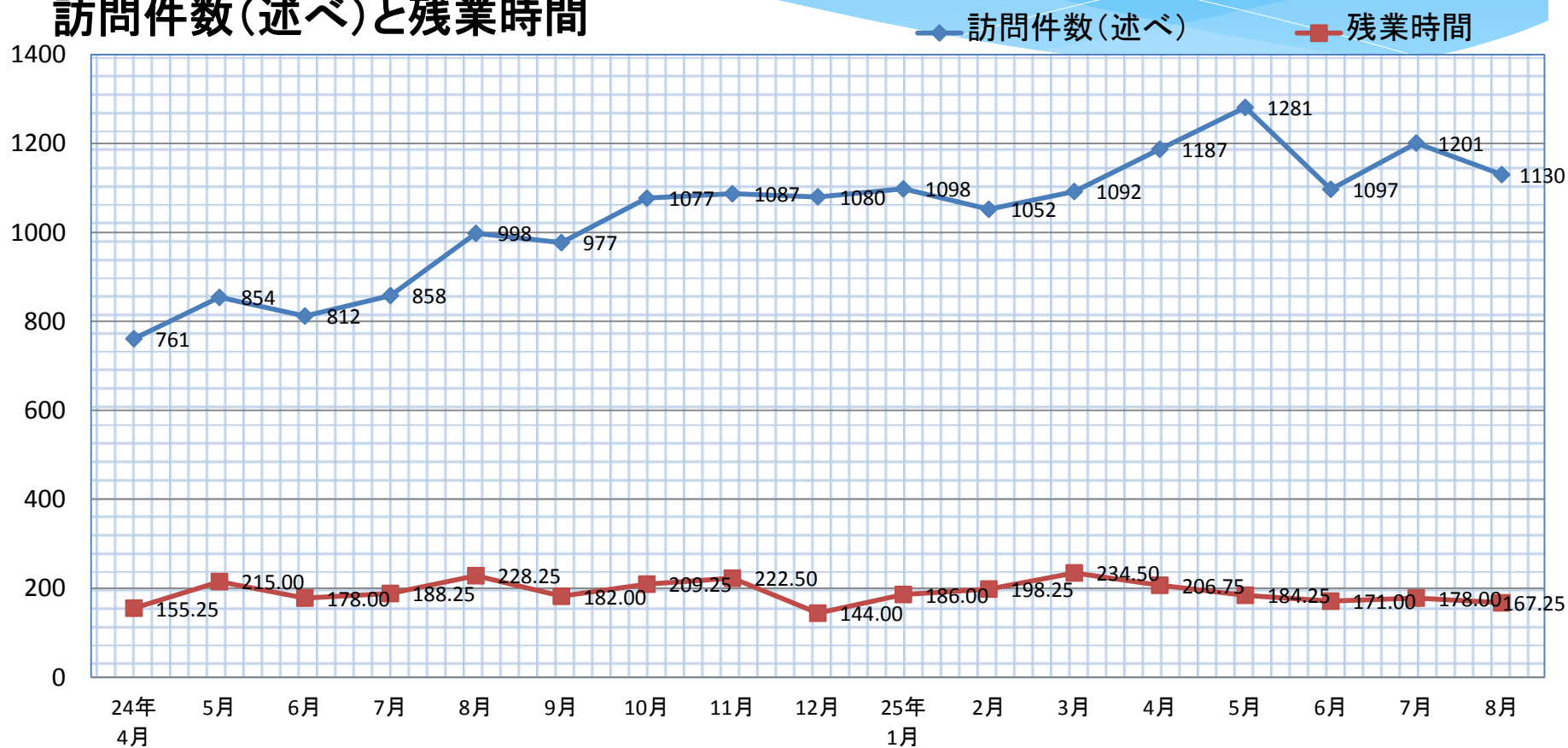


# システム導入の結果

- \* 業務が効率化した（業務が整理され、無駄な作業がなくなり、簡便になった）
- \* 訪問件数が増加、残業時間は減少  
(2012年8月、2013年8月比  
収入は13%増、残業代は17%減)
- \* 医療連携がスムーズになった
- \* スタッフ同士の連携が強化され、情報の共有が図れた
- \* 夜間当番用のPC導入により、利用者の情報が手元にある為、緊急対応する看護師の不安が軽減した

# 訪問件数と残業時間

## 訪問件数(述べ)と残業時間



# 今後の展望

- \* より安全でより使い易いシステムへ
- \* 医師や多職種と、安全に、リアルタイムで情報共有が出来るツールを模索
- \* 2025年の超高齢化社会を見据えて  
幅広い機能を持った訪問看護ステーションが  
受け皿となれるよう基盤を整えていく